



2006年7月豪雨

実体験からの一言、 「一番困ったのが、ハッキリ 言うとトイレなんですよね」

水害の経験から判った、災害用トイレの必要性

2006年7月に日本列島を縦断的に襲った記録的豪雨（七月豪雨）は長野県岡谷市内にも壊滅的な水害をもたらし、主要道路の冠水、土石流災害などを起こした。駐車場に80cmもの水が溜まった八十二銀行諏訪南支店は、まさに陸の孤島と化し、営業休止を余儀なくされる。当時を同銀行総務部グループ長 黒岩恵一郎氏は振り返る。

「一番困ったのが、はっきり言うとトイレなんですよね。下水が流れないので、水を流せない。したがってトイレで用がたせない。我慢にも限界がありました。」そこで、トイレが使える所までずぶ濡れになりながら皆で歩いていくことにした、と語る。

「近所の、なんとか行ける所に連絡をして、(比較的高い位置にある)道路の中央分離帯まで行って、その上を連絡先に向ったりしました。水かさがかかなりあり、なかには背負われなければ分離帯まで行けない女性行員もいました。女性にしてみれば、かなりきつい経験なのではなかったかと記憶しています。」

わがまま言えない状況で、どこまでできるか？

基本的に必要不可欠なトイレ。しかし、プライバシー面からいうと「恥ずかしい」という意識もある。「もちろん個室などでプライバシーなどが守られることが望ましいのですが、ああいう状況でわがままも言えない中、どこまで出来るかということですね。さすがにトイレがハダカで置かれてて、『さあ、どうぞ』と言われても困ります。だから、最低、目隠し。もっと言えばしっかり囲ったものがあるといい。仮に段ボールと言えども、**囲われた箱があるということに安心感を覚えます。**」



当時の写真をみながら災害の状況を語っていただいた。

災害時に見落とされがちな「プライバシー」にも配慮が行き届く。経験したからこそできる「備え」の心得を教えてください。



株式会社 八十二銀行
総務部グループ長
黒岩 恵一郎 様

「災害には、地域の中で協力しなければ出来ないことは率先して協力していきたい。地域金融機関の使命・責任だと思っています。」

導入商品

wrappon
TREKKER
ラップボン・トレッカー

danbee
ダンビー



八十二銀行

本 社 〒380-8682 長野市大字中御所字岡田178番地8
設 立 昭和6年8月1日
資 本 金 522億円(平成20年12月9日現在)
事 業 項 目 普通銀行業 (1)預金業務(2)貸出業務(3)証券業務(4)内国・外国為替業務
(5)生命保険媒介業務(6)損害保険代理業務(7)確定拠出年金運営管理業務 等

ラップボン セイフティーコール **0120-208-718** <http://www.wrappon.com>
Free Call E-mail:kaigo@nihonsafety.com

資料ご希望の方は、フリーダイヤル・メール・ホームページからお気軽にどうぞ

日本セイフティー株式会社 ラップボン事業部 〒112-0002 東京都文京区小石川1-3-11